

〔科目名〕 組 織 論	〔単位数〕 4単位	〔科目区分〕 必修
〔担当者〕 じょん ごんじん 丁 圀鎮	〔オフィス・アワー〕 時間： 質問・相談などの問合せ 場所： chung@b.nebuta.ac.jp	授業方法 WEB 講義、集中講義
〔科目の概要〕 個人にとって組織とは、大いに役立つ存在でありながら、諸刃の剣のように、大きな弊害を与える存在でもある。組織の発展そのものが必ずしも個人の発展を意味するものではなく、個人の発展がそのまま組織の発展につながるものでもない。つまり、個人の犠牲を払って発展する組織もあれば、組織を悪用して自己欲求を満たしている個人もいる。 私たちが目指しているのは、組織と個人が共に発展する社会づくりである。そこで、本講義の目的は、「組織と個人が共に発展できる理想社会の実現」のために、組織設計および個人行動に関する基礎的理論を分かりやすく解説することと、理論を現実に応用するための創造的思考フレームワークや積極的行動モデルを学習することにある。 授業で学んだ「組織と個人」に対する理解力や思考力を用いて、諸君が現在所属している組織、さらにこれから関わる様々な組織でリーダーとしての役割を果たしながら、自己成長はもちろん、集団および組織の発展に貢献できることを期待する。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 1年春学期に学んだ「経営学」関連授業の内容を踏まえながら、人間の協働活動の主体となる組織(企業、学校、病院、自治体、NPO 等)の本質と機能、個人や集団との関わり、社会との共生などに関する基本的な内容を学習する。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 第Ⅰ部 組織設計：マクロ組織論 目標:組織を効果的に機能させるために、組織構造(即ち、協働の仕組み)を如何に設計するかを学習する。 組織を構成する諸要素間の調和、構造とパワーの調和を保ちながらシステムとして効果的に機能する組織づくりを中心的内容とする「ミンツバーク (Mintzberg.H) の組織設計論」を取り上げる。 第Ⅱ部 個人行動：ミクロ組織論 目標:組織の中の個人が満足感を得ながら積極的に行動するためには、何が必要であるかを学習する。 個人行動の基本的原理を理解し、その行動を活性化する仕組みを明らかにするため、組織における個人の行動を考察・分析の対象とする「組織行動論：Organizational Behavior」を取り上げる。 第Ⅲ部 個人と組織の役割 目標:イノベーションが求められている変革社会において、個人と組織が果たすべき役割とは何かを学習する。 個人の役割を「知の創造」、組織の役割を「共通価値の創造」と捉え、その理論の学習と共に、思考フレームワークと行動モデルについて学ぶ。 ○講義の最終目標 組織の発展と個人の発展が共に実現できる理想社会を実現すること。 変革の時代に生きる「個人と組織」が社会的役割を果たすこと。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 ・講義中に、重要なポイントを明確に知らせる。 ・テストに、選択肢問題も多少入れる。		
〔教科書〕 丁 圀鎮『組織設計と個人行動 増補版』文眞堂、2020 年 ※ <u>初版(2016 年)は使わない。</u>		

〔指定図書〕 H.ミンツバーグ著・北野利信訳『人間感覚のマネジメント』ダイヤモンド社、1991 年 桑田耕太郎・田尾雅夫『組織論（補訂版）』有斐閣、2010 年 スティーブン P.ロビンス著・高木晴夫訳『新版 組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社、2009 年 沼上 幹『組織デザイン』日本経済新聞社、2004 年 藤田英樹『コア・テキスト ミクロ組織論』新世社、2009 年	
〔参考書〕 飯野 春樹『バーナード 経営者の役割』有斐閣新書、1986 年 鈴木 秀一『入門 経営組織』新世社、2002 年 二村敏子編『現代ミクロ組織論』、有斐閣、2004 年 十川廣國編『経営組織論』中央経済社、2006 年	
〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 小テストと期末テストで評価する。	
〔評価の基準及びスケール〕 小テスト40点、期末テスト60点（合計 100 点） A：80 点以上、 B：79 点～70 点、 C：69 点～60 点、 D：59 点～50 点、 F：50 点未満	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ・授業に出席し、可能な限りノートやメモを多めにとっておくこと。 ・毎週復習し、ノートを整理しておくこと。 ・学んだことを身近な例に適用(応用)してみること。 ・2～3人が集まって自律的に勉強することを強く薦める。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか):経営学への手引き 内 容: 経営学(マネジメント)とは何か、組織と経営、経営学で何を学ぶか 教科書・指定図書 配布資料
第2回	テーマ(何を学ぶか): 組織論への手引き(1) 内 容: 組織論を学ぶ意義、組織の定義(一般的定義) 教科書・指定図書 配布資料
第3回	テーマ(何を学ぶか):組織論への手引き(2) 内 容: 組織の定義(C.I.Barnard の定義)、組織の存続と発展 教科書・指定図書 配布資料
第4回	第 I 部 組織設計 テーマ(何を学ぶか):組織の基本的属性 内 容: 授業の概要・構成、なぜ H.Mintzberg か、組織の主要部分、調整メカニズム 教科書・指定図書: 第1章
第5回	テーマ(何を学ぶか):組織の設計要素(1) 内 容: 職務の専門化、公式化、単位編成、単位規模 教科書・指定図書: 第1章

第6回	テーマ(何を学ぶか):組織の設計要素(2) 内 容: 組織構造の形態、リエゾン 教科書・指定図書: 第1章
第7回	テーマ(何を学ぶか):組織の設計要素(3) 内 容: 分権化 教科書・指定図書: 第1章
第8回	テーマ(何を学ぶか): 組織における状況要因 内 容: 組織の年齢・規模、技術、環境、パワー 教科書・指定図書: 第1章
第9回	テーマ(何を学ぶか):組織の基本的類型(1) 内 容:企業家的組織、機械的組織 教科書・指定図書: 第2章
第10回	テーマ(何を学ぶか):組織の基本的類型(2) 内 容: 多角的組織、専門職業的組織 教科書・指定図書: 第2章
第11回	テーマ(何を学ぶか):組織の基本的類型(3) 内 容:革新的組織 教科書・指定図書: 第2章
第12回	テーマ(何を学ぶか):効果的組織設計 内 容:伝道的組織、政治的組織 教科書・指定図書: 第3章
第13回	テーマ(何を学ぶか):組織設計の基本原理 内 容: 形と力の原理 教科書・指定図書: 第3章
第14回	テーマ(何を学ぶか): 効果的組織設計 内 容: 形と力の結合、組織のライフサイクル 教科書・指定図書: 第3章
第15回	第Ⅱ部 個人行動 テーマ(何を学ぶか):モチベーション(1) 内 容: 欲求段階説、ERG 理論 教科書・指定図書: 第4章
第16回	テーマ(何を学ぶか):モチベーション(2) 内 容:二要因理論、期待理論、公平理論 教科書・指定図書: 第4章
第17回	テーマ(何を学ぶか):モチベーション(3) 内 容:内発的動機づけ理論、達成動機づけ理論 教科書・指定図書: 第4章

第18回	テーマ(何を学ぶか):モチベーション(4) 内 容: 職務設計、モチベーションの実例(DVD鑑賞) 教科書・指定図書: : 第4章
第19回	テーマ(何を学ぶか):リーダーシップ(1) 内 容: 人を動かす影響力、伝統理論 教科書・指定図書: 第5章
第20回	テーマ(何を学ぶか):リーダーシップ(2) 内 容: 条件適合理論 教科書・指定図書: 第5章
第21回	テーマ(何を学ぶか):リーダーシップ(3) 内 容: リーダーの役割とマネジャーの役割、リーダーに求められる能力 教科書・指定図書: 第5章
第22回	テーマ(何を学ぶか):リーダーシップ(4) 内 容: コーチング、リーダーシップの実例(DVD 鑑賞) 教科書・指定図書: 第5章
第23回	テーマ(何を学ぶか):コミュニケーション(1) 内 容: コミュニケーションの重要性と機能 教科書・指定図書: 第6章
第24回	テーマ(何を学ぶか):コミュニケーション(2) 内 容: コミュニケーションと「場」、場の本質と機能 教科書・指定図書: 第6章
第25回	テーマ(何を学ぶか): コミュニケーション(3) 内 容: 場と知識創造、SECI モデル、知識創造の動態モデル 教科書・指定図書: 第6章
第26回	テーマ(何を学ぶか): コミュニケーション(4) 内 容:、場の活性化 教科書・指定図書: 第6章
第27回	第Ⅲ部 個人と組織の役割 テーマ(何を学ぶか): 個人の役割(1) 内 容: 創造的リーダーの役割、リーダーに求められる能力 :教科書・指定図書: 第7章
第28回	テーマ(何を学ぶか):個人の役割(2) 内 容:「知の創造」とその仕組み 教科書・指定図書: 第7章
第29回	テーマ(何を学ぶか):組織の役割(1) 内 容: Social Innovation、企業における社会的責任(CSR)と共通価値創造(CSV) 教科書・指定図書: 第7章
第30回	テーマ(何を学ぶか):組織の役割(2) 内 容: 共通価値創造(CSV)と効果的取り組み、価値創造モデル(ビジネス・モデル) 教科書・指定図書: 第7章
試 験	期末テスト(筆記試験)

